

「ネットリテラシーにおける、ルールとモラル」

今回は、世間を騒がしている「回転寿司スシロー」での迷惑動画について話をさせていただきます。自分には関係ないことと捉えず、ネットリテラシー（インターネットを安全に使いこなすために必要な知識や能力）におけるルール（規則、約束）とモラル（社会において守るべき規範や決まり事）について考える機会にさせていただけると幸いです。皆さんも、テレビのニュースや、スマホ等でこの事件について知っていることと思いますが、今回のスシロー事件、一言で言えば、笑い話で許されない時代になったと言うことです。皆さんは、この動画が拡散された少年の、その後の様子を知っていますか。少年が「スシロー」であの動画を撮影したのは1月中旬頃のことだそうです。「これは絶対受ける！」「これで仲間内から拍手喝采だ！」とでも思ったのか、少年が撮影した50秒ほどの動画は、カメラに「キメ顔」を向けて終わります。しかし、その動画は1月下旬、ネット上で拡散され、多くの他人の目に触れることになりました。

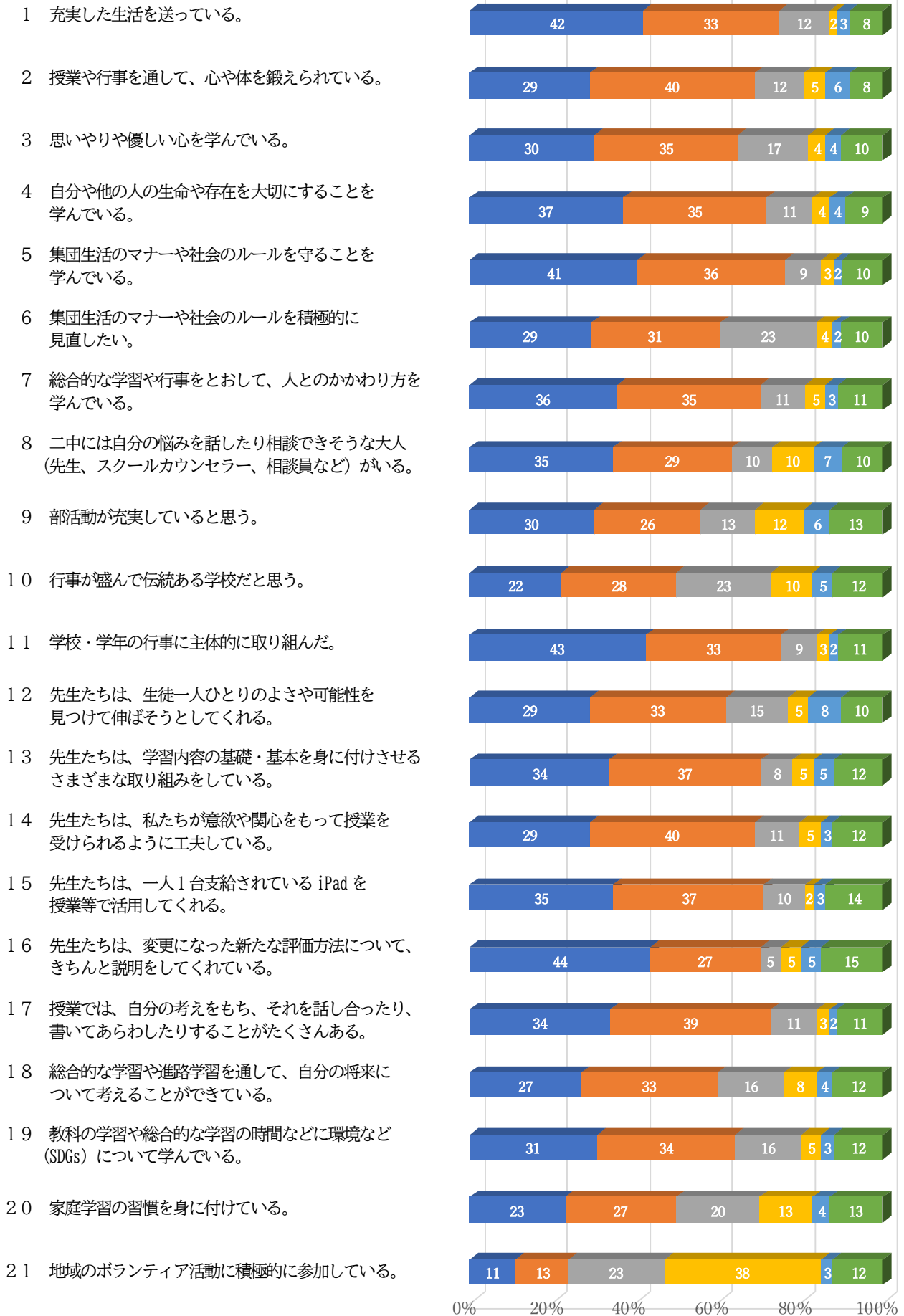
今年に入り、「くら寿司」「はま寿司」など、他の回転寿司チェーン店でも迷惑行為動画が拡散されて話題になっていたようですが、そんな中でも極めて悪質だったこの動画は大炎上しました。少年の本名や住所、通っている高校名、中学校名と卒業アルバムの顔写真、さらに少年の親や兄弟の名前、親が通う会社名、兄弟が通う学校名までがネット上にさらされ、少年の個人情報が一気に全世界へ公開されることとなりました。こうした炎上動画は、Twitter、Instagram、TikTok等の動画に、自分の悪ぶりを自慢するために上げられます。炎上動画は仲間や身内での受けを狙い、自らのSNSに投稿されます。多くの人から注目を浴びたいわけではないのですが、それが友人から友人（少年にとっては面識のない他人）へ共有されるうちに、誰かが転載して世間に拡散されることとなります。今回のケースもそうですが、最近では「暴露系」という、ネット上で起こる事件をまとめてアップするユーザーがいて、そこに、こうした動画が送信されます。暴露系のユーザーがネットに上げることによって爆発的に広がっていきます。すると、そこに入り込んでくるのが「特定班」と呼ばれるユーザー達です。動画内容やアカウント情報を手がかりに対象人物を特定し、個人情報を暴いて拡散します。

さらに、今回のスシローの件では、あるYouTuberが少年の高校に突撃し、少年が通う高校に対し「なぜ退学処分にしらないのか」と詰め寄る動画を投稿する始末となりました。少年は慌てて1月31日に保護者とスシローに謝罪に行きますが、時はすでに遅く、スシローは警察に被害届を提出し、刑事事件、民事事件の両面から厳正に対処すると発表しました。この事件を受け、スシローの時価総額は一時170億円も下落する事態となりました。これから裁判が行われることとなりますが、スシローからこの少年へ、いいえ、少年は未成年ですからこの少年の保護者に賠償請求が言い渡されます。賠償金については想像もできません。少年は一生を抱えて償わなければならない重い十字架を背負うこととなりました。今出回っているこの少年の情報は、ネット上で半永久的に残り続けます。辛い話ですが、この少年の今後の進学、就職、結婚など人生の様々なステージを通過する際に、関係者に名前をネットで検索され、不利益を被ることは十分にあります。事実、少年は通っていた高校を自主退学したのではといった噂も流れています。たった一度の過ちが、人生にダメージを及ぼしかねないのです。ワンクリックで人生が破滅。私たちはそんな時代に生きていることを肝に銘じ、自分の衝動や欲求をコントロールし、それをやったらその先に何が待ち受けているのかといった「想像力」を常に働かせていかなければなりません。

中学生の携帯所持率は90%以上です。本校の中学生もスマホを持っていることと思います。SNSで友達の悪口や、画像を勝手にアップして楽しんでいませんか。また、中野区から支給されている学習用iPadに不必要な画像や動画を取り込んで、遊んではいませんか。友達の顔写真を勝手に加工して、SNSにアップしたりして楽しんでいませんか。また、他人がアップした動画を勝手に自分のスマホに取り込み、友達に拡散して楽しんでいませんか。もしも、それを知った加害者があなたのことを警察に訴えれば、スシロー事件の少年と同じ運命をたどることになるかもしれません。友達に受けを狙って配信した画像や文章が、知らないところで拡散され、最終的にその責任をあなた自身が背負うことのないよう、インターネットの情報や事象を正しく理解し、それを適切に判断し、適切に使うことのできる力を今から身に付けていきましょう。スマホもパソコンもタブレットも皆さんのこれからの人生にとって必要不可欠なツールとなり生活をする中で手放せない物となります。使い方を間違わなければ非常に頼もしい道具となります。是非、これを機会に、スマートホンやタブレットの使い方について、一人一人考えてみてください。最後に、皆さんの携帯の契約者は、保護者であることを忘れないでください。

生徒アンケート全校集計結果

□そう思う □ややそう思う □あまり思わない □まったく思わない □分からない □未記入



令和4年度学校生活に関する生徒アンケート集計結果

項目	R2	R3	R4
1	85	90	75
2	79	86	69
3	78	77	65
4	80	81	72
5	88	90	77
6	/	/	60
7	93	85	71
8	70	76	64
9	76	60	56
10	84	77	50
11	/	/	76
12	78	69	62
13	69	82	71
14	72	73	69
15	/	/	72
16	/	/	71
17	82	78	73
18	71	72	60
19	/	/	65
20	68	60	50
21	74	32	24

全校生徒を対象に、Ipadを活用し学校生活に関するアンケート調査を実施しました。

下の表は、上記グラフの肯定的な評価「そう思う」「ややそう思う」の合計値における、令和2年度からの数値を示したものです（斜線のある番号は今年度から新たに追加した質問項目となります）。

結果として、すべての数値がマイナスの数値を示す結果となりました。この表からは分かりませんが、学年別にみると第3学年の数値が全体的に低いことから、今回の結果につながったものと考えます。また、第3学年は、第1学年からの3年間を通じて、他学年よりも常に低い数値を表しています。その理由の全てを、コロナ禍によるものとすることはできませんが、改めて卒業を間近に控えた3年生の第二中学校での3年間を振り返り、次年度の学校運営における成果目標をしっかりと考えていかななくてはいけないと痛感しています。

今から3年前、3月の春休みが前倒しとなり、4月・5月の臨時休校が加わり、生徒たちは新旧年度をまたいで3ヶ月の長きに渡って、三間（学校区間・仲間・時間）から切り離された生活を余儀なくされ、教職員も自宅勤務が命じられました。その間に1、2度の分散登校が組まれましたが、人数的、時間的な制約の中での登校であり、生徒だけでなく教職員の苦労と苦悩もありました。

その後、学校は再開されましたが、学校生活を送る生徒の雰囲気には違和感を感じたことを思い出します。（当時、私は他区の中学校の副校長でしたので、本校の生徒について感想を述べているものではありません）

何かお互いに他人行儀でよそよそしい、新1年生も、クラス替えのあった2・3年生も、内心はハラハラ・ドキドキで4月を迎えるものですが、そういった時期に十分な時間をかけて共に学び、お互いに声を掛け合いながら、信頼の芽

を培っていくものと思いますが、コロナ禍のため、そういった助走が不十分なままに学校が再開となったことが大きな要因であったのではないかと考えます。同様なことは大学生についてもいえるようで、大半の大学は前期の対面授業を取りやめ、オンラインによる遠隔授業となりました。新入生にしてみれば、通うはずの大学にどんな仲間がいるかも分からず、大学に足を踏み入れる経験もないままに、自宅で孤独に講義をオンラインで終日聞き、レポートを提出する日々が繰り返されました。学生の声には「実際に学校で受けるときの空気感（環境）がないために物足りない」「雑談のない授業に人間味がない。」「ただ淡々と授業をこなしている。」など切実な声が聞かれました。中学生は、大学生のように自分気持ちを吐露することはできませんが、気持ちは大学生と同じ物と受け止めます。また、中学校では、毎日の検温、体調確認、手指の消毒、給食の時間は黙食、廊下で生徒同士が近づいて話をしていると教師は注意をしなくてはならない、生徒も教職員も、コロナ以外で学校を休んでもコロナと疑われ、教職員は生徒の登校前と登校後には教室の机・椅子、ロッカー、階段の手すりに至るまで消毒を行い、副校長はコロナに感染した生徒の保護者から感染経路等の詳細な聞き取りを行い、報告用紙にまとめ、毎日教育委員会へ提出する、そのような非日常的で、リアリティーのない学校生活を今日まで送ってきました。

毎年行う生徒アンケートですが、そこに表れる数値は、決していい加減なものではなく、生徒個々の心の叫びであり、「学校に対する通知表」であると受け止めています。

このような実情を踏まえた上で、With コロナで求められる学校教育の方向性の第1として、教師による対面授業とオンライン授業との組み合わせによるハイブリット型の授業が求められると考えます。今後コロナが収束しても、対面授業とオンラインそれぞれのメリットを生かした教育活動には大きな可能性があると思います。また、不登校や障害をもつ子どもたちにとっては、自宅での教育保証も含めた学びの選択肢が広がるものと考えます。

第2に教員の意識改革です。コロナ禍における3年間の検証をしっかりと行い、新しい時代を見据えて果敢に可能性を追求する覇気が必要ではないでしょうか。最後に、「子どもたちの実像をしっかりと見据えた教育」が必要と考えます。かつての子どもは自然の中で遊びながら、或いは、地域において生活、成長していく過程で自然体験や社会体験を日常的に積み重ねて成長する機会に恵まれていました。しかし、今の子どもたちを巡る環境は、心や体を鍛えるための負荷がかからない、無重力の状態であり、健全育成にとって深刻な状態に直面していると考えます。将来、人工知能が人間の知恵を超える時代が来ると言われていますが、人間のみが持ちうる特性には「創造力」があり、異なる他者と協働する能力があり、チャレンジ精神や仲間とのコミュニケーションをはかる能力があります。学校生活に関する生徒アンケートの結果から、五感をフルに動員させた自然体験、社会体験、人との喜怒哀楽の交歓を子どもたちに十分に保証できる環境作りが、次年度の喫緊の課題と考えます。

「3月行事予定」から

中野ランニングフェスタ 2023

コロナ禍の間中止となっていた、中野ランニングフェスタが復活しました。本校からはサッカー部の生徒が参加します。5名1チームでレース駅伝に参加します。応援をお願いします！

- 日 時 2023年3月12日(日)
- 会 場 中野区立「中野四季の森公園」
- 日 程 開会式 9:30
 1500mペアラン 9:45 スタート
 1500mラン 10:20 スタート
 3000mラン 10:45 スタート
※レース駅伝 11:20 スタート
 エンジョイ駅伝 12:25 スタート
 10kmラン

令和4年度中野区中学校サンプラザ中野 閉館イベント 中学3年生に贈る未来へのメッセージ ～中野区立中学校3年生 1200人へのエール～ 新しい時代への幕開け

- 日 時 2023年3月14日(火) 14:00～16:15
 - 会場 サンプラザ中野(大ホール)
 - 主催 中野区、中野区教育委員会、中野区中学校校長会
 - 内容 第1部「記念講演」
 講師 元サッカー日本代表 楨野 智明 氏
 第2部「記念アトラクション、ミニコンサート」
 宝仙学園高等学校ダンス部パフォーマンス
 (2019年世界大会出場)
 大妻中野女子高等学校合唱部コンサート
 (今年度全国最優秀賞)
- ※ 3年生の生徒はバスで送迎いたします。中野区内9校の3年生全員が参加しますのでご了承ください。

3月 行事予定

日	曜	学 校 行 事	給食
1	水	都立合格発表	○
2	木	専門中央委員会	○
3	金	3年学年時間割開始	○
4	土		
5	日		
6	月	生徒朝礼・都立2次出願 3年スポーツ大会	○
7	火	都立2次取下げ	○
8	水	都立2次入試	○
9	木	3年薬物乱用教室 1年社会人の話を聞く会	○
10	金	3年国際交流・奉仕活動	○
11	土		
12	日	中野ランニングフェスタ	
13	月	全校朝礼	○
14	火	3年サンプラザ中野閉館イベント	○
15	水	卒業式予行 2年進路の話を聞く会	○
16	木	卒業式準備	○
17	金	卒業式	
18	土		
19	日		
20	月	学年朝礼・1年球技大会	○
21	火	春分の日	
22	水	定時制2次出願	○
23	木	大掃除・2年球技大会 定時2次取下げ(入試3/27)	○
24	金	修了式	
春季休業日 3/25(土)～4/5(水)			
4/6	木	始業式	
4/7	金	入学式	

令和4年度 第74回 卒業式

令和5年3月17日(金)、3年生113名が本校を巣立ちます。
 今年は来賓を迎え、式には保護者の方々と2年生が参列し、卒業を祝います。
 コロナの蔓延に始まり、コロナの収束とともに卒業を迎える3年生達、感慨もひとしおです。
 保護者の皆様、当日はぜひご臨席いただき、新たな一歩を踏み出す卒業生の前途を祝し、激励をいただきますようお願い申し上げます。

- 日 時 令和5年3月17日(金) 10:00 開式 (受付 9:20)
 ※ 卒業生の入場は、9時57分を予定しています。